

## シリーズ 私の一冊の本

薬学部 高橋 忠伸 先生

児島 将康 著

### 『 科研費獲得の方法とコツ 』

閲覧室 2階 377.7//Ko39 羊土社

本書のタイトルにある「科研費」は、文部科学省および独立行政法人日本学術振興会が行っている、人文学、社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる学術研究（大学等の研究者の自由な発想に基づく研究）を対象とした競争的資金（研究費）のことです。科研費の獲得は、研究者が独自の研究を継続していくための重要な手段です。2018年度科研費から、制度が大きく改革されました。本書は科研費の新制度についてよく知りたい方に適しています。本書は将来、大学などのアカデミックの研究者をめざしている学生や若手研究者に、科研費の概要から申請方法までを教えてください。

科研費は申請した4～5人のうち1人しか獲得できません。科研費を獲得するためには申請書を書き、専門分野の近い複数の研究者による審査で高く評価してもらうことが必要です。審査員の多くは大学教員などで、教育、研究、大学運営など多忙な業務に追われています。そのような状況で審査員は多数の申請書を短時間に審査しなくてはならず、専門分野が近いと言っても研究の意義や内容はなかなか理解しづらいものです。たとえ画期的な内容であっても案外認めてもらえないかもしれません。ですから自分の研究の内容、計画、意義を淡々と書き連ねた申請書では、他人にはポイントを理解してもらえず、科研費の獲得は難しいことが多いのです。本書では、審査員経験のある筆者がどのような申請書がよいのか、何を書いたらよいか、どのように評価されるのかについてアドバイスしています。申請書をどのように作成したらよいのか全く分からない若手研究者にはうれしい指南書です。

本書は申請書の実例を悪い例と良い例に分けて比較し、改良のポイントを分かりやすく示しています。「悪い例」を工夫するだけで、同じ内容でこんなにも分かりやすい「良い例」になるのかと驚かされます。学生を含む多くの方々が日常であるいはビジネスで、たとえばレポートや報告書、配布資料など人へ伝える文書を書かれているはずですが、本書で書かれたコツは、他人が見やすく、短い時間でポイントを理解しやすい文書を書くために、研究者以外の方にも利用できるのではないのでしょうか。

本書の277ページのうち「コツ」に関する内容は100ページ程度で、科研費の制度を読み飛ばせば数時間で読み終えることができます。科研費を申請する研究者だけに限らず、多くの学生に読んでいただきたいです。